

図 2.5-2 福井県における漂着ゴミの状況 (2007年8月25・26日撮影)

(赤色の旗印は海水浴場の位置を示す。)

3. クリーンアップ調査

クリーンアップ調査（共通調査及び独自調査）は、図 3-1 に示すように原則として2ヶ月毎に実施した。ただし、冬季は、海岸に積雪があり漂着ゴミが回収できない。また、風雪が強いため安全が確保できないことから調査を実施できなかった。

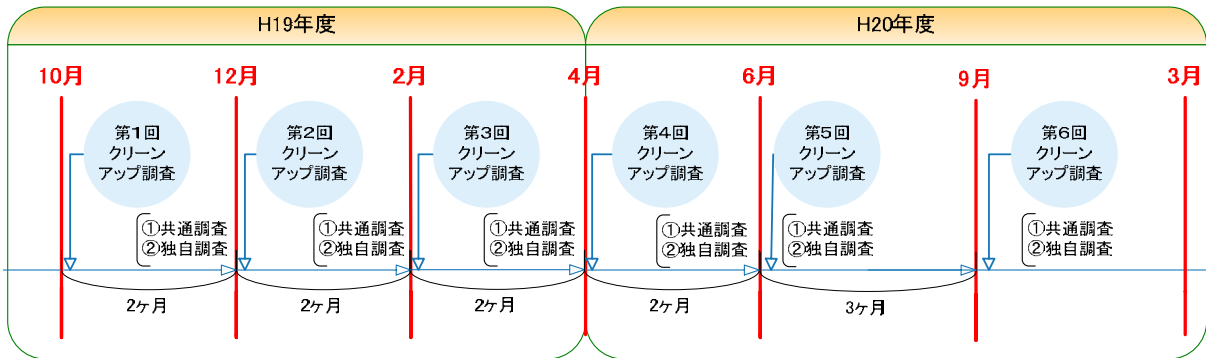


図 3-1 クリーンアップ調査スケジュール

3.1 共通調査

3.1.1 目的

本調査は、各モデル地域の定点（調査地点）において、漂着ゴミの回収・分類を定期的に行うことで、漂着ゴミの種類、量、分布状況の経時的変化の解析に資するデータを得ることを目的とした。

3.1.2 調査工程

福井県で実施した調査工程を表 3.1-1 に示す。冬季は海岸に積雪があり漂着ゴミが回収できない。また、風雪が強いため安全が確保できないことから調査を実施できなかった。

表 3.1-1 共通調査工程（福井県坂井市地域）

| 第 1 回調査 | 第 2 回調査 | 第 3 回調査 | 第 4 回調査 | 第 5 回調査 | 第 6 回調査 |
|--------------------------------------|--------------|---------------|-----------|-------------|---------------|
| 2007 年 | | 2008 年 | | | |
| 9 月 20～23 日 10 月 1 日～ 10 月 5 日 | 11 月 26～30 日 | 荒天のため 実施せず | 4 月 7～9 日 | 5 月 26～28 日 | 9 月 16 日～19 日 |

3.1.3 調査方法

(1) 調査区域の設定

共通調査は、調査範囲から汀線沿いに下記の条件を満たす5kmの調査区域を設定した。調査範囲が5kmに満たない場合でも同様の考え方で、かつ出来る限り長く調査区域を設定した。

- ①浜の傾斜や状態（砂場、岩場等）が比較的均一な海岸線
- ②連続した海岸線（ただし一体と考えられる海岸線であれば断続しても可能）
- ③大きな河川の河口部は、河口の両サイドを除外
- ④前面にテトラポッド等が設置されている区域は除外
- ⑤傾斜地など調査が困難な場所、安全性が確保できない場所は除外

(2) 共通調査の対象範囲

決定した調査区域を原則として5分割し、その5分割した調査区域に、以下の①～⑤を考慮して調査枠を設置する地点を設定した。

- ①大潮満潮時の汀線を基準に10m四方のコドラートを設置
- ②汀線から内陸方向に向かって最大5個設置（ただし奥行きのない場所は置ける個数だけ設置）
- ③内陸方向へは堤防等の構造物の根元、傾斜地の根元、防砂林等の植生がある場合は植生内5mまで設置
- ④原則としてゴミの量が平均的な場所を選定
- ⑤調査区域内を代表する地点であれば、等間隔でなくてもよい

今回のモデル地域の海岸では、海岸の奥行き（岸沖方向）が狭く、10m四方のコドラートを5枠設置できない海岸が多い。そのため図3.1-1に示す方法により、10m枠が1枠しか設置できない地点では、漂着ゴミの空間分布を把握するため、2m枠を複数設置した（図3.1-2参照）。調査枠は次回以降も同じ場所に設置するため、正確な位置を測定した。

福井県における調査範囲を図3.1-3に、調査枠の大きさを図3.1-4に、航空写真による調査枠の設置状況と模式図を図3.1-5に示す。

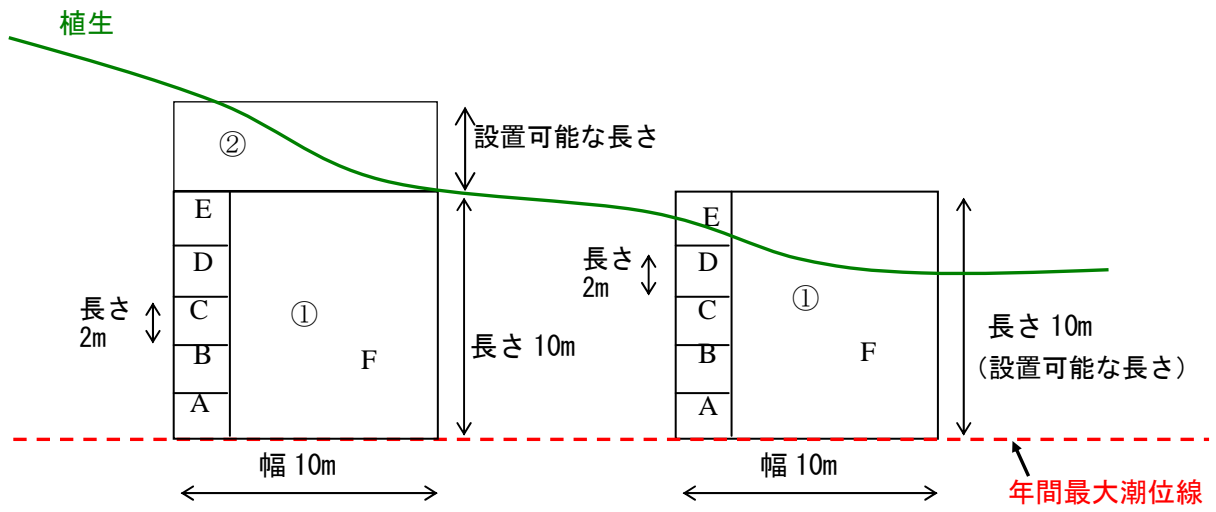


図 3.1-1 共通調査枠の設置方法

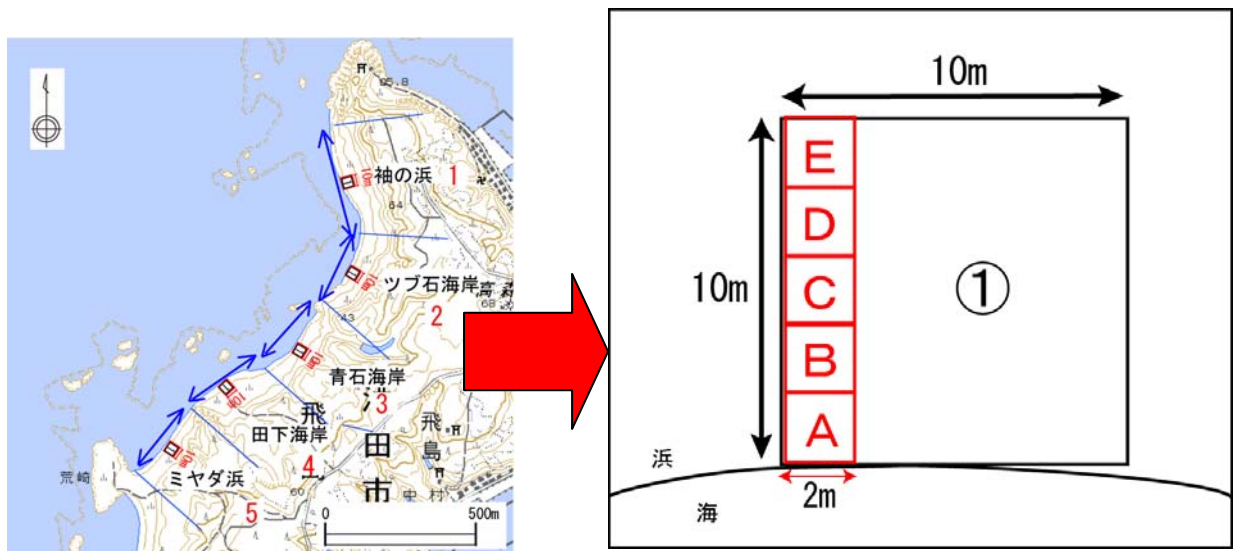


図 3.1-2 調査枠内の詳細図 (例：飛島西海岸)



図 3.1-3 調査範囲（福井県坂井市 梶地先海岸～安島地先海岸）

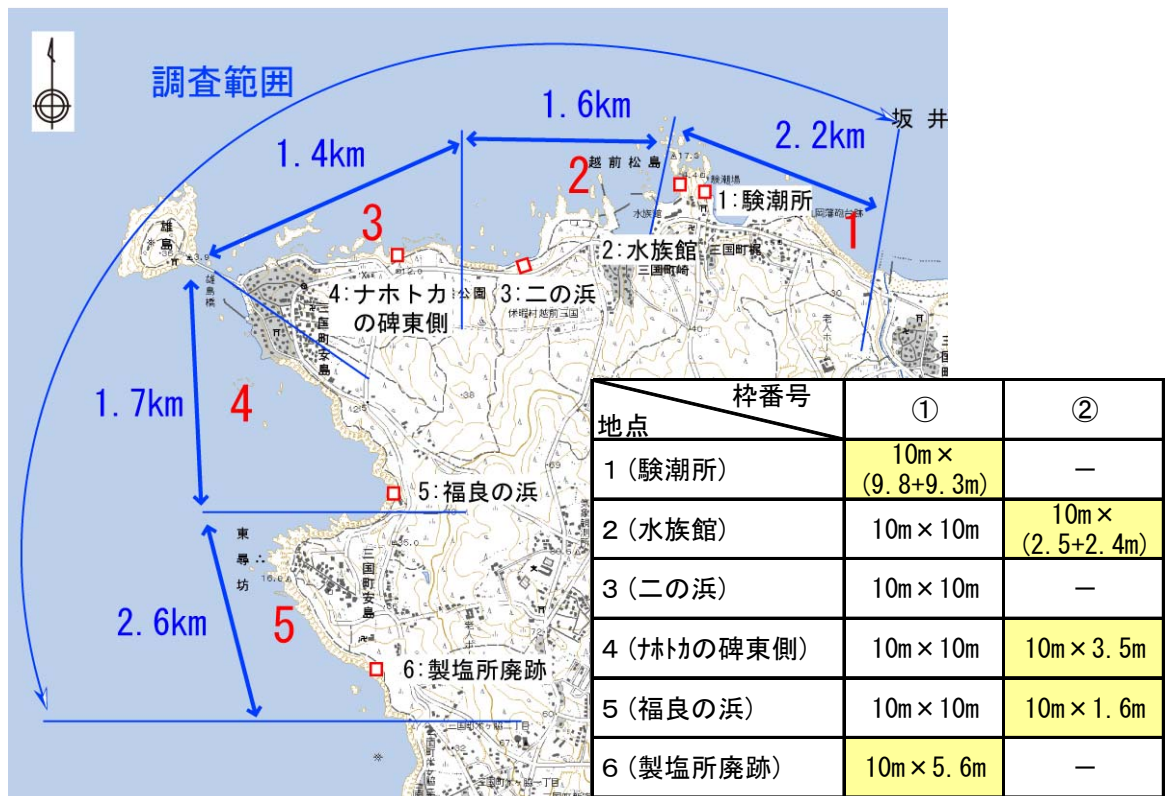


図 3.1-4 調査地点及び調査枠（福井県坂井市 梶地先海岸～安島地先海岸）



図 3.1-5(1) 共通調査枠の設置状況(地点1: 験潮所)



図 3.1-5(2) 共通調査枠の設置状況(地点2: 水族館)



図 3.1-5(3) 共通調査枠の設置状況(地点3:二の浜)



図 3.1-5(4) 共通調査枠の設置状況(地点4:ナホトカの碑東側)